

2008年度学生による授業アンケート結果と授業改善の取組みについて

大学 FD 委員会

本学では、演習・講義を含む学部開講科目を対象として、学生による授業アンケートを実施しています。その集計結果は、データ化して記述式回答と共に担当教員にフィードバックし、授業改善のための資料として活用しています。また、これと同時に全学的に統計資料の作成を行い、組織的な授業改善にも取り組んでいます。今回は、2008年度に実施したアンケートの結果概要とこれを受けた大学としての授業改善の取組についてお知らせします。

1. アンケート実施方法について

前期は2008年7月4日～7月30日、後期は2008年12月18日～2009年1月30日の期間に実施し、実施科目数は前期：481科目（講義：252、演習：229）、後期512科目（講義235、演習：277）でした。アンケートは無記名式とし、担当教員が直接配布や回収を行うことは避け、取りまとめの学生を指名し、指名された学生が代表としてアンケートの配布・回収を行い、所定の提出場所に持参することとしています。設問は、選択式（OCR）と記述式からなり、講義・演習共に選択式（OCR）は共通設問の（1）～（17）と、担当教員が独自に内容を設定する（18）～（20）に分かれています。記述式は（21）「この授業で良かった点を書いてください」、（22）「この授業で改善してほしい点を書いてください」、（23）「この授業で扱ってほしい内容について書いてください」という3つの共通設問と担当教員が独自に内容を設定できる設問1つで構成されています。選択式（OCR）については、各設問に対して、該当する1つの回答を選択する形式となっており、2つ以上選択した場合又は何も選択されていない場合には無効回答として処理され、集計の対象から除外されます。評定平均値は、回答のA～Eの選択肢に対してA=5、B=4、C=3、D=2、E=1のポイントを乗じ、各設問における合計ポイントを有効回答数で除した数値（小数点以下第三位を四捨五入）です。

2. アンケート実施結果

集計結果の詳細は、別表をご覧ください。全体的な傾向としては、「総合的な満足度」は講義で前期が4.13、後期が4.27、演習で前期が4.30、後期が4.42となっており、過去のアンケート結果と同様、本学学生の授業に対する満足度は総じて高いと言えます。また、総合的な満足との相関が高い項目としては、「この授業を受講した結果、この分野（領域）への関心は深まった」「教員の説明はわかりやすかった」が挙げられます。

その一方、ここ数年継続の課題としては、授業外学習に関する状況が挙げられます。2007年度から講義と演習に分けて集計を行い、授業外学習に取り組んだ学生の比率が演習では高く、講義では低い傾向があることが確認できました。さらに、講義における当該項目の標準偏差（ばらつきを示す数値）からは、回答のばらつき、すなわち授業外学習に取り組んだ学生とそうでない学生とに2極化している傾向も見られます。これらの傾向は、2008年度のアンケート結果にも表れています。

3. 授業改善に向けた取組

全体としては高い満足度を示すアンケート結果でした。特に、教員の熱意・授業のわかりやすさ・関心の深まりについては、非常に高い評価を得ています。教員が熱意をもって授業に取り組み、学生の知的探求心を強く

らえる授業が多かったということは、たいへん喜ばしいことです。しかし、その一方で、講義における学生各自の授業外学習時間の短さは、やや懸念されるところです。とすると、学生の知的関心を高めつつも、その先の深化や、学生の自立的な学習方法の確立には至っていないという傾向が見取れるようです。この点が今後の最大の課題でしょう。

現代の学生はマニュアル世代と言われます。幼少時から細やかなマニュアルに慣れていて、フリーハンドでは行動に移しにくいという特徴があると指摘されています。また、現代は情報過多であるがために、かえって取舍選択に迷うということもあるのかもしれませんが、もちろん最終的には、学生が自立的に学習し、教師を乗り越えていくような状況が理想的ですが、導入についてはもっと丁寧に行うべきと考えます。この点を改善するために、来年度以降シラバスの項目を改め、授業外の学習方法を具体的に指示する項目を設定したいと思います。また、個々の授業の到達目標も具体的に明示する項目を設定します。授業の到達目標がはっきりと示されれば、授業で何をなすべきかが自ずと見えてきます。シラバス項目を改めることによって、授業の問題点を改善してゆけることを期待したいと思います。

また、授業外で担当教員に質問したい学生もいるでしょう。そうしたとき、質疑応答を活発に交わせることができる、授業ごとの掲示板のようなものがあれば、授業外学習を支援することができます。このような双方向的交流ができる場所を、模索したいと思います。

本学の授業アンケートも、かなりの回数を重ねてきました。そろそろ成熟の時期を迎えたと言ってもいいのかもしれませんが、これまでの成果を振り返りながら、今後のアンケート、フィードバックの方向性について、改めて議論する時機に来ているのではないのでしょうか。他大学の多くは、WEB形式にアンケートに切り替え、時期やフィードバック方法についても、最善の方法を模索し、着々と実現させています。WEB形式のアンケートの実施、アンケート実施時期（例えば授業期間内の中間アンケートなど）、フィードバックの方法など、今後議論を重ねてゆく必要があります。よりよい授業の実現を目指して、大学を挙げて取り組んでいきたいと思っております。そのための一材料として、近々学生とのFDについての座談会を実施する予定です。学生は、本学の授業やアンケートをどうとらえ、どのような改善を求めているのか、生の声を聞き取り、教職員に届けるつもりです。皆様のご協力をお願い致します。

また、アンケートとは直接関わりませんが、授業改善を推進するための教職員向け講演会等を今年度は次のとおり実施します。

*FD 講演会 9月23日（水）

沖裕貴立命館大学教育開発推進機構教授

*フェリスの教育についてのパネルディスカッション 10月21日（水）

島村輝教授・富樫剛准教授・向井秀忠教授（パネリスト）

大野英二郎教授・谷知子教授（司会進行）

*公開授業 12月9日（水）

大島武東京工芸大学准教授・本学非常勤講師

授業アンケートの活用とともに、様々な側面から授業改善に取り組んでいきます。多くの教職員が集まり、大学が活性化するようなFDを目指したいと願っております。

谷知子（教務部長・FD副委員長）

【講義科目】 前期(履修者:14,861、回答者:9,552)／後期(履修者:13,917、回答者:8,132)

設問文	前期			後期		
	全体平均点	問16との相関係数	標準偏差	全体平均点	問16との相関係数	標準偏差
1 授業の進み具合(進行速度)は適切だった。	4.32	0.673	0.821	4.38	0.661	0.763
2 各回の授業内容の量は適切であった。	4.29	0.679	0.847	4.37	0.672	0.778
3 この授業を受講した結果、この分野(領域)への関心が深まった。	4.24	0.742	0.949	4.34	0.724	0.863
4 授業に集中できる雰囲気を保つ配慮がされていた。	4.11	0.577	0.997	4.22	0.580	0.947
5 授業の開始時間、終了時間は守られていた。	4.43	0.461	0.832	4.47	0.482	0.779
6 テキスト、参考文献、配布資料等の使用は適切であった。	4.33	0.636	0.849	4.40	0.646	0.784
7 板書や視聴覚教材(スライド、オーディオ機器、PC、楽器等)の利用は適切であった。	4.22	0.586	0.918	4.33	0.597	0.845
8 教員の授業に対する意欲・熱意を感じられた。	4.51	0.641	0.751	4.57	0.651	0.693
9 教員の説明はわかりやすかった。	4.26	0.768	0.952	4.38	0.757	0.864
10 教員の声の大きさなどは適切で聞きやすかった。	4.47	0.624	0.812	4.53	0.618	0.748
11 成績評価の基準は明確であった。	4.05	0.597	0.948	4.17	0.579	0.892
12 シラバス(授業内容や課題)は受講に役立った。	4.04	0.658	0.945	4.16	0.636	0.892
13 この授業のために授業時間外の学習(予習・復習・課題等)を行った。	3.58	0.456	1.188	3.73	0.482	1.136
14 この授業の内容について自分自身で学習するための方法が把握できた。	3.69	0.626	1.083	3.86	0.630	1.032
15 この授業で使う教室の大きさ、設備、備品等は適切だった。	4.23	0.570	0.929	4.27	0.556	0.935
16 *総合的に判断して、この授業の満足度を示してください。	4.13	/	0.953	4.27	/	0.861
17 この授業におけるあなたの出席状況を示してください。	4.14	0.072	1.051	3.99	0.104	1.061

【演習科目】 前期(履修者:5,254、回答者:4,160)／後期(履修者:4,945、回答者:3,845)

設問文	前期			後期		
	全体平均点	問16との相関係数	標準偏差	全体平均点	問16との相関係数	標準偏差
1 授業の進み具合(進行速度)は適切だった。	4.34	0.683	0.830	4.42	0.665	0.764
2 各回の授業内容の量は適切であった。	4.36	0.703	0.826	4.44	0.668	0.761
3 この授業を受講した結果、この分野(領域)への関心が深まった。	4.38	0.720	0.870	4.52	0.711	0.744
4 授業の開始時間、終了時間は守られていた。	4.51	0.457	0.760	4.53	0.467	0.755
5 テキスト、参考文献、配布資料等の使用は適切であった。	4.42	0.598	0.780	4.49	0.620	0.731
6 授業の人数は適切であった。	4.42	0.474	0.829	4.57	0.539	0.711
7 少人数授業の利点を生かした授業展開がされていた。	4.27	0.579	0.952	4.51	0.624	0.792
8 教員の授業に対する意欲・熱意を感じられた。	4.56	0.666	0.723	4.63	0.684	0.668
9 教員の説明はわかりやすかった。	4.40	0.767	0.884	4.50	0.765	0.799
10 教員の声の大きさなどは適切で聞きやすかった。	4.55	0.633	0.760	4.61	0.672	0.707
11 教員は学生の質問や学習上の相談に応じてくれた。	4.38	0.632	0.823	4.48	0.660	0.769
12 成績評価の基準は明確であった。	4.08	0.584	0.902	4.24	0.600	0.867
13 この授業のために授業時間外の学習(予習・復習・課題等)を行った。	4.09	0.436	0.992	4.30	0.453	0.889
14 この授業の内容について自分自身で学習するための方法が把握できた。	4.08	0.655	0.948	4.27	0.630	0.851
15 この授業で使う教室の大きさ、設備、備品等は適切だった。	4.37	0.550	0.836	4.49	0.558	0.758
16 *総合的に判断して、この授業の満足度を示してください。	4.30	/	0.878	4.42	/	0.804
17 この授業におけるあなたの出席状況を示してください。	4.07	0.070	1.078	3.94	0.091	1.096

【相関係数】

相関係数とは2種類のデータ間での関連性の強さを表す数値です。今回の帳票では、問16「総合的に判断して、この授業の満足度を示して下さい」と各設問の関連性を表します。数値は1.0に近いほど両者には強い関連性が認められることを意味しています。

【標準偏差】

標準偏差とは平均値がどれだけ回答の分布を代表しているかを示す指標です。標準偏差が小さいほど回答が平均の近くにまとまっており、標準偏差が大きいほど回答が平均から散らばって分布していることを示します。